



國家圖書館編

東亞同文書院

中國調查手稿叢刊

94

六月三日

六月四日

國家圖書館出版社





國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

94

國家圖書館出版社

第九四冊目錄

昭和二年（一九二七）調查報告（第二十四期生）

上海臨時法院ニ就テ

關於上海臨時法院

上海ニ於ケル同業團體（附同鄉團體）

上海的同業團體（附同鄉團體）

上海ヲ中心トスル船舶業

以上海爲中心の船舶業

山田清一

第十四卷第一編

……………一

第十四卷第二編

……………二九五

第十四卷第三編

……………六一九

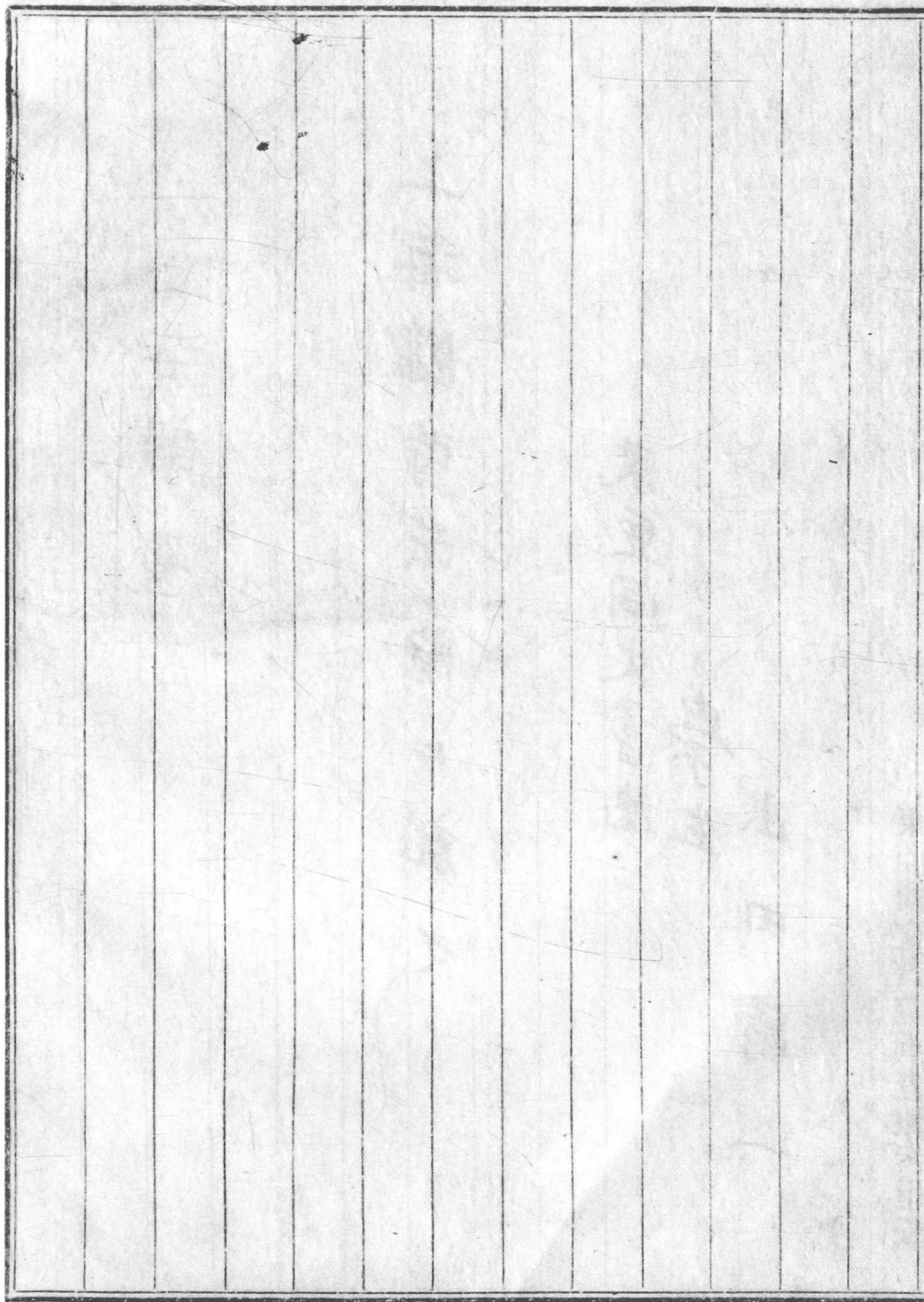
上海調查

上海臨時法院已就

東亞同文書院

學生

小田清一



第一編 上海臨時法院に就て

目次

序文

一四頁

第一章

諸論

一頁

第二章 上海臨時法院の沿革

二頁

第三章 上海憲審衙門の略歴

二頁

第四章 上海憲審衙門の回収運動

二頁

第五章 一九二五年五卅事件前

第六章 一九二五年五卅事件より

一九二五年九月三十日の支派

開始の要旨

五五頁

第七章 一九二五年九月三十日より

一九二五年九月三十日より

第四節^款 上海に往ける支隊 八七頁

第五節^款 北京に往ける公使團の能は

及支那側北京政府外交部及

司法部の能はと親印に至る迄 一一三頁

第六節^款 會審衙門回收暫行章程 一二九頁

第七章^款 右章程條條佐實際引渡に至る迄

(五十六年九月より一九三七年一月に至る) 一二九頁

第八章^款 臨時法院の組織 一五三頁

第九章^款 臨時法院の構成 一五三頁

第十章^款 臨時法院訴訟手續規程 一六一頁

第十一章^款 刑罰訴訟手續 一六一頁

第十二章^款 召喚 一六二頁

第十三款項 逮捕状 一六三頁

第二款

第三款	項	搜索令状	一六三頁
第四款		証人	一六五頁
第五款		訴狀の修正	一六六頁
第六款		審問	一六九頁
第七款		因審	一七四頁
第八款		控訴	一七四頁
民事訴訟手続			一七七頁
第一款	項	訴訟	一七七頁
第二款		答辯訴訟の保証	一七八頁
第三款		原告の命令	一八〇頁
第四款		要求の詳述	一八二頁
第五款		訴狀の修正	一八五頁
第六款		審問	一八五頁

第八款 項 評 答

一八六頁

第九款 反 訴

一八九頁

第十款 法院の對する支拂

一九〇頁

第十一款 解差佐の訴訟手續

一九一頁

第十二款 重要なるもの其人

一九二頁

第十三款 不記解による取下

一九三頁

第十四款 訴訟の取下げ

一九四頁

第十五款 書記長

一九五頁

第十六款 審判官

一九六頁

第十七款 法院の一般的能力

一九七頁

第十八款 中回裁判の申込

一九八頁

第十九款 審判官

一九九頁

第二十款 審判官の職務

二〇〇頁

第三十一款 項 証人

三三頁

第三十二款 判決

三三頁

第三十三款 執行命令の中止

三三頁

第三十四款 財産の差押及競賣

三三頁

第三十五款 判決に依り確定したる

債権者の召喚

三三頁

第三十六款 第一債務者の訴訟手続

三三頁

第三十七款 逮捕

三三頁

第三十八款 管轄外の執行命令

三三頁

第三十九款 代理人に依り訴訟

三三頁

第四十款 組合により或は組合に對する

訴訟手続

三三頁

第四十一款

送達

三三頁

第三章 款 項

期間の計算

二三五頁

第三章 款 項

常務者の名義或その他の名義

二三五頁

第三章 款 項

債権移転に對する名押

二二六頁

第三章 款 項

積込違當金及破産

二二九頁

第三章 款 項

因害

二三〇頁

第三章 款 項

控訴

二五一頁

第四章 節

混在事件審問方法及屬當に關する

二五二頁

控訴文書

第四章 節

無治外法權國に就て

二四三頁

第五章 款 項

無治外法權國に民を包有する民事

二四四頁

在刑に關する規程

第六章 款 項

無治外法權國に就て犯される

特殊犯罪事件

二四七頁

第三章 款 露西要人訴訟者の依る使用せられたる機 二四八

第四章 款 無流外法ね国の辯護士の出立に因る。

暫行章程 二五〇

第五章 款 露西外法ね国人民を名有する氏及形勢

事件に因る指号 二五二

第五章 款 出法院料金制

二五九

第四章 款

総論

第六章 款 露西法院に於ける別はと露西審判の別は

との間に於ける差を更せられたる箇所 二六九

第七章 款 民事訴訟手続規程

二七九

第八章 款 刑事訴訟手続規程

二八〇

第九章 款 露西の要人等の中にある箇所

二七四

第十章 款 露西審判回収暫行章程に於ての

第四節

せうねんさう国分

最近の法律院の取扱いなる事件

に就て

二七五頁

二七七

以上

上同圖

海東亞
文庫
書印

序文

は十月末の第一学期試験終了後病後の事も忘れ
てたものの法律知識の増進を怠らぬと志す
見してその方面の知識を充ちて要とするものなる以上僅かに毎日
授業後の時間を利用して一冊に之に當りたる到底限られざる予
月や三月月間に之と定算することは不可能なり又それらをして刑法の研
究法の手解きとて大に利するものなり之が知識も種々なものなり刑法の研
究の概略と知るものなり要する時間と相違大にありたる一冊の刑法
院は會考部衙門とは異なる同僚部衙門より一身同所と云ふべしこの方面
に於ては一面の知識を得た方々を多くと極力探求したるを略す
法律の歴史とあるや法律の沿革と過ぐる部は法律史の沿革
と一冊を讀みしと部は法律の沿革と過ぐる部は法律史の沿革

次の引用一なるを著者目録と掲ぐれば次の如くである

1. Shanghai; Its Mixed Court and Council. By A. H. Ktumar
2. Shanghai; Its Municipality and the Chinese. By A. H. Ktumar.
3. 上海 春中社發行
4. 會審衙門一軌手 馬場敏太郎著
5. 中華民國法令輯集
6. Municipal Gazette; Municipal Council. Shanghai.